

胆道閉鎖症スクリーニングを開始して

札幌市では平成13年5月から1か月健診のときに胆道閉鎖症のスクリーニングを開始しました。2年間の結果は以下のとおりです。

症例	便色調番号	日令	再報告番号	精査日令	精査結果	手術日令	備考
1(F)	3	39		42	胆道閉鎖症 ( )	55	術後良好
2(M)	4	33	3	52	胆道閉鎖症 ( )	58	術後良好
3(M)	(3)	50		56	胆道閉鎖症 ( )	59	術後良好
スクリーニング数				26,173	頻度		
精査数				21	1/1,246		
患児数				3	1/8,724		
1ヶ月時発見数				1	1/3		
60日以内の手術				3	3/3		
検査用紙の効果				3	3/3		

平成15年3月までの検査で26,173名のカードの提出があり、その間に3名の胆道閉鎖症患者が発見されました。平成14年度の実施率は約97%です。

いずれの患児も55から59日と目標である生後60日以内での手術を行うことができ、術後経過も良好です。

21名の精密検査の中には、胆道閉鎖症以外に、乳児肝炎や遷延性乳児黄疸と診断された例もあり、この検査の効果が期待されています。

発見までの経緯

1例目の患児は1か月健診のときに3番で提出され、担当の小児科医も可能性が高いかなと気づき、カードが衛研に届いて手続きを行い、専門医で精密検査を実施して診断治療されました。

2例目は、1か月健診のときお母さんは3から4番とと思っていましたが、健診の病院から4番でいいでしょうと言われ、4番で提出されました。しかし、そのあとお母さんは不安に思って衛生研究所に電話してきました。「何番で提出していますか。」「今3番のようですが。」それで、精密検査をしてもらうことになりました。

3例目は、1か月健診がほぼ生後2か月目に行くことになっていました。お母さんは便の写真を見てどうも怪しいかもしれないと感じて、近くの小児科を受診しました。小児科医は可能性が高いと疑い、総合病院を紹介し確定診断され、小児外科のある病院で手術が行われました。



## どうすればもっと確実に

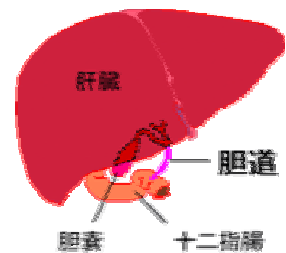
お母さんは便の色を毎日何回も見ています。ちょっとした変化も敏感です。2例目の例ではたまたま健診時は4番に近かったかもしれませんが。お母さんが「3から4番」と選択にこまっていたら、そのまま3から4と記入してください。その場合はすぐに精密検査の手続きを行います。



番号の変化の電話も衛研には結構きます。いろいろな便の相談もきます。その中で怪しいと思われるものは精密検査をお願いしています。それで発見されるのが2割くらいあるといわれています。

3例目の場合は、1ヶ月健診が59日目でした。お母さんは1か月のころすでに便の色は3番と気付いていました。1か月健診で提出するものだと思い、結局カードは提出されませんでした。心配したお母さんは近所の小児科を受診しました。

3例とも、お母さんは便色調カードのおかげで便の異常に気づき、早い対応が取れました。全てが1例目のように順調にシステム通りいくとは限らないということがわかりました。いろいろまだ改善しなければいけない部分がありますが、母子健康手帳の1か月健診のところに便のカラーカードがあるということは、胆道閉鎖症の早期発見に貢献できていると感じています。



## ほかの都市の状況

このカラーカード方式は栃木県の大学の医師が考案した方法です。栃木県では平成6年(1994)8月から研究が始まりました。小児科医が1か月健診でカードを回収し、異常な番号の記入があれば精密検査を依頼します。平成12年までの結果では、受診率は86%と高率で、この検査での発見率は82%で精密検査を受けた人8名に1名が患者であるという結果でした。

そこで、栃木県の方法に準じて札幌市で開始しました。

茨城県では平成10年から開始しました。しかし、1か月健診で回収する体制が取れなかったため、保健所に郵送してもらうことにしました。平成12年までの結果では、1か月の受診率は38%と低く、効果も思ったほど期待できませんでした。

岩手県でも平成14年から開始しました。

厚生労働科学研究や学会の発表ばかりでなく、札幌市の母子健康手帳は全国の都市に紹介されており、また、北海道も早期に開始できるように現在検討中です。



## 最後にひとこと

札幌市の母子健康手帳に胆道閉鎖症のカラーカードがとじ込められて、早期発見が容易になってきました。安価で実施できるこの方法は、全国的にも照会が多く、見学者もいらしています。実施していろいろなこともわかってきました。

早期発見がこの疾患の予後を左右します。早く全国実施されることを望んでおります。